

# とさとふる 資料紹介

＝89＝

## 収集資料紹介ノート ―モノに歴史あり―

### （八）養蚕火鉢

蚕の飼育時には、絶えず一定の温度を保つ必要があり、温度の管理が重要でした。低温だと、蚕の食欲を減少させ発育を遅らせます。逆に高温や多湿だと、蚕の病気を多発させる原因になるのです。

低温や多湿を防ぐためには、補温によって換気や除湿を図ります。補温のためによく用いられた道具が、今回の「養蚕火鉢」です。

写真の火鉢は素焼きできており、周囲に14個の穴があいています。一般に燃料は、練炭や炭火を使用しました。



▲養蚕火鉢

火鉢以外にも、コタツ式の囲炉裏を造って補温手段を加える家もありました。

今回は、次の方から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

（平成十年十月分）

○石ウスなど二点

（日比野富夫さん／中富町）

○軍隊手帳など二点

（古川繁男さん／山之上町）

○依しめ機

（佐合 伝さん／下米田町）

○大鋸<sup>のこ</sup>など十三点

（高井誠吾さん／山之上町）

○機織り機など六点

（織田正夫さん／太田町）

博物館建設のため、現在いろいろな資料を収集しています。文化課（文化会館内／■内四）○（八）まで情報をお寄せください。